

## 2012年度前期末試験問題・数学B(C3)

1. 次の ( ) に入るもっとも適切な答えを解答欄に書け。ただし、答のみ。

置換  $P = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 \\ 2 & 6 & 1 & 5 & 4 & 3 \end{pmatrix}$ ,  $Q = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 & 6 \\ 4 & 1 & 3 & 5 & 2 & 6 \end{pmatrix}$  について、 $P$  を同じ数字を含ま

ない巡回置換の積で表すと  $P = (1)$ 、同様にして  $Q = (1, 4, 5, 2)$  となる。すべてを互換で表せば  $P = (2)$ 、 $Q = (1, 2)(1, 5)(1, 4)$  となる。従って、 $\text{sgn}(P) = (3)$ 、 $\text{sgn}(Q) = (4)$  となる。積は  $PQ = (5)$ 、 $QP = (6)$  であり、逆置換は  $P^{-1} = (7)$ 、 $Q^{-1} = (8)$  となる。

$A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & 3 \\ -1 & 3 & 4 & 2 \\ 2 & 3 & 5 & 4 \\ 3 & -2 & -2 & 2 \end{pmatrix}$  のとき、 $(2, 3)$  成分の小行列式  $D_{23}$  の値は ( 9 )、また  $A$  の 2 次

の小行列  $A \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 1 & 2 \end{pmatrix} = (10)$  だから、 $\left| A \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 1 & 2 \end{pmatrix} \right|$  の値は ( 11 ) となる。 $|A|$  の値を求める

ために 1 列目を用いて  $|A| = \begin{vmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ -1 & 4 & 4 & (12) \\ 2 & (13) & 5 & -2 \\ 3 & -5 & -2 & -7 \end{vmatrix}$  従って、 $|A|$  の値は ( 14 ) で

ある。従って逆行列が存在し  $|A^{-1}|$  の値は ( 15 )、また  $A$  の余因子行列を  $\tilde{A}$  とすれば  $|\tilde{A}|$  の値は  $3^{(16)}$  である。さらに  $|{}^t A|$  の値は ( 17 ) である。

$\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_4 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}$  のとき、次の Gram の行列式の値を求めると

$\begin{vmatrix} (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_1) & (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2) \\ (\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_1) & (\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_2) \end{vmatrix} = (18)$ ,  $\begin{vmatrix} (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_1) & (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2) & (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_3) \\ (\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_1) & (\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_2) & (\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3) \\ (\mathbf{a}_3, \mathbf{a}_1) & (\mathbf{a}_3, \mathbf{a}_2) & (\mathbf{a}_3, \mathbf{a}_3) \end{vmatrix} = (19)$

$\begin{vmatrix} (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_1) & (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2) & (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_3) & (\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_4) \\ (\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_1) & (\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_2) & (\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3) & (\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_4) \\ (\mathbf{a}_3, \mathbf{a}_1) & (\mathbf{a}_3, \mathbf{a}_2) & (\mathbf{a}_3, \mathbf{a}_3) & (\mathbf{a}_3, \mathbf{a}_4) \\ (\mathbf{a}_4, \mathbf{a}_1) & (\mathbf{a}_4, \mathbf{a}_2) & (\mathbf{a}_4, \mathbf{a}_3) & (\mathbf{a}_4, \mathbf{a}_4) \end{vmatrix} = (20)$

2.  $A = \begin{pmatrix} 2 & 3 & 1 \\ 4 & 1 & -3 \\ -1 & 2 & 2 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} -4 \\ 2 \\ -6 \end{pmatrix}$  のとき、 $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$  を満たす  $\mathbf{x}$  を Cramer

の公式を用いて求める次の解答の ( ) に入るもっとも適切な答えを解答欄に書け。ただし、答のみ。

$|A| = (1)$  である。 $A$  を列ベクトルを用いて  $A = (\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3)$  と表せば  ${}^t\mathbf{a}_2 = (2)$  となる。

この表記を用いれば、(注意：(2) は転置したものを解答する)

$$|\mathbf{b} \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3| = (3), \quad |\mathbf{a}_1 \ \mathbf{b} \ \mathbf{a}_3| = (4), \quad |\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{b}| = (5) \text{ という値が求まる。}$$

$A\mathbf{x}$  を  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$  の線形結合で表せば、 $A\mathbf{x} = (6)\mathbf{a}_1 + y\mathbf{a}_2 + (7)\mathbf{a}_3$  だから、例えば

$$|\mathbf{b} \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3| = |A\mathbf{x} \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3| \\ = (8) |\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3| + (9) |\mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3| + z |\mathbf{a}_3 \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3| \text{ となる。}$$

$$|\mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3| = |\mathbf{a}_3 \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3| = (10) \text{ だから、これを上式に代入して}$$

$|\mathbf{b} \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3| = (11) |A|$  が導ける。従って、 $x = (12)$  という値が求まる。同様にして  $y = (13), z = (14)$  という値が求まる。

3. 次の行列式を求めよ。

$$(1) \begin{vmatrix} 0 & 2 & 2 & 1 \\ 2 & 0 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 0 \end{vmatrix} \quad (2) \begin{vmatrix} x & -1 & 0 & 0 \\ 1 & x & -1 & 0 \\ 0 & 1 & x & -1 \\ 0 & 0 & 1 & x \end{vmatrix}$$

4.  $A$  を  $l$  次の正方行列とし、その余因子行列を  $\tilde{A}$  とする。次の文章の ( ) に入るもっとも適切な答えを解答欄に書け。ただし、答のみ。

$A$  の  $(i, j)$  成分の余因子を  $\tilde{a}_{ij}$  と表す。また  $A$  の  $(i, j)$  成分の小行列式を  $D_{ij}$  と表せば、

$$\tilde{a}_{ij} = (1) D_{ij} \text{ である。} A \text{ の } (i, j) \text{ 成分が } a_{ij} \text{ であるとき、} \sum_{k=1}^l a_{ik} \tilde{a}_{jk} = \begin{cases} (2) & (i=j) \\ (3) & (i \neq j) \end{cases}$$

従って、 $A\tilde{A} = (4) E$  が成り立つ。ただし、 $E$  は  $l$  次の単位行列。同様にして

$$\sum_{k=1}^l a_{ki} \tilde{a}_{kj} = \begin{cases} (5) & (i=j) \\ (6) & (i \neq j) \end{cases} \text{ が成り立つので } \tilde{A}A = (7) E \text{ も成り立つ。従って } |A| \neq 0 \text{ なら}$$

ば  $A$  は正則で  $A^{-1} = (8)$  ところで  $|A\tilde{A}| = |A|^{(9)}$  だから  $|A| \neq 0$  ならば

$$|\tilde{A}| = |A|^{(10)} \text{ が成り立つ。} \text{ またもし } |A| = 0 \text{ ならば } |\tilde{A}| = (11) \text{ である。なぜならこれが成り}$$

立たなければ  $\tilde{A}$  は正則になるから  $A\tilde{A} = (4) E$  から  $A = (12)$  となり、余因子行列の定義から

$\tilde{A} = (13)$  となる。これは  $\tilde{A}$  が正則であることに矛盾する。従っていずれの場合も

$$|\tilde{A}| = |A|^{(14)} \text{ が成り立つ。}$$

(裏もあり)



$A\tilde{A}$  がどうなるか大切だと授業で言ったよね

5.  $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & 3 & 4 \\ 5 & 6 & 5 \end{pmatrix}$  について、次の問いに答えよ。

(1)  $A$  は正則か。正則ならば余因子行列を用いて  $A$  の逆行列を求めよ。余因子行列を用いていない場合は点を与えない。

(2)  $A$  の余因子行列  $\tilde{A}$  は正則か。正則ならばその逆行列  $(\tilde{A})^{-1}$  を求めよ。ただし、答のみ。

(3)  $A$  の余因子行列の余因子行列、 $\tilde{\tilde{A}}$  を求めよ。ただし、答のみ。

6. 連立1次方程式  $\begin{pmatrix} 4 & k \\ 2 & \frac{3}{2} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$  が  $x=y=0$  以外の解をもつように定数  $k$  の値を求めよ。また、そのときの解を求めよ。

7.  $\begin{vmatrix} 1+x^2 & xy & xz \\ yx & 1+y^2 & yz \\ zx & zy & 1+z^2 \end{vmatrix} = 1+x^2+y^2+z^2$  を証明するための以下の論理の ( ) の中

に入るもっとも適切な答えを解答欄に書け。ただし、答のみ。

1列目の各成分を2つの数の和と考えると、

$$\text{与式} = \begin{vmatrix} (1) & xy & xz \\ yx & 1+y^2 & yz \\ zx & zy & 1+z^2 \end{vmatrix} + \begin{vmatrix} 1 & xy & xz \\ (2) & 1+y^2 & yz \\ (3) & zy & 1+z^2 \end{vmatrix}$$

$$\text{第2項} = \begin{vmatrix} (4) & (5) \\ zy & (6) \end{vmatrix} = (7) \text{となる。第1項は1列目と1行目から共通因数 } x \text{ をそれぞれく}$$

くりだして、その後1行目を用いて変形すれば

$$\text{第1項} = x^2 \begin{vmatrix} 1 & y & z \\ (8) & 1+y^2 & yz \\ (9) & zy & 1+z^2 \end{vmatrix} = x^2 \begin{vmatrix} 1 & y & z \\ 0 & (10) & (11) \\ 0 & (12) & (13) \end{vmatrix} = (14)$$

以上により証明された。

8. 3つのベクトル  $\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} x \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} x \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  が線形従属になるように  $x$  の値を行列式

を用いて求めよ。行列式を用いていない場合は点を与えない。